

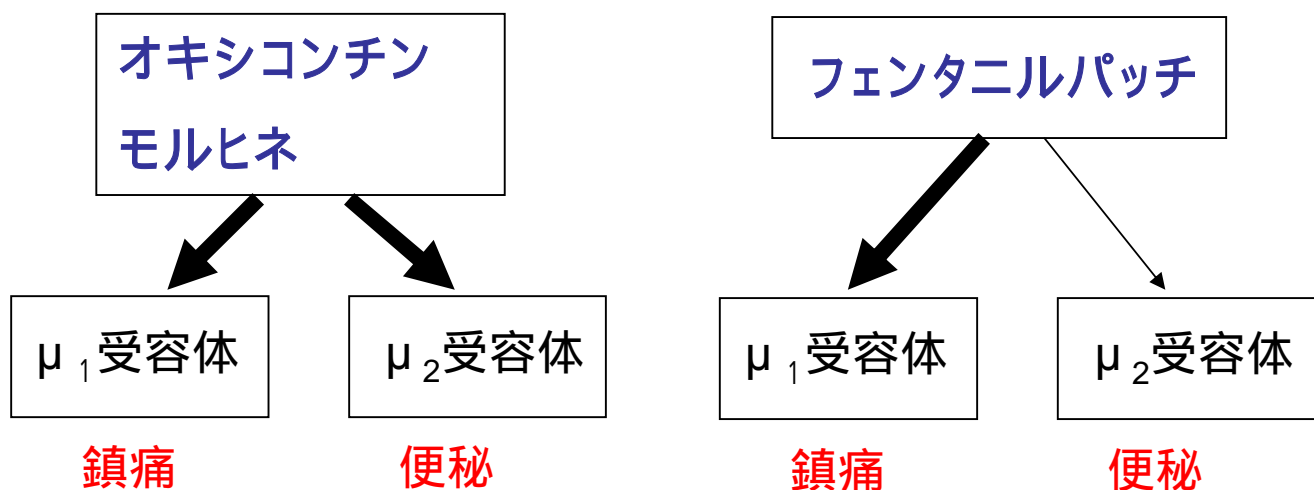
# 麻薬使用時の副作用対策

## 便秘

オピオイド使用中の患者でほとんどすべての患者で発現する。  
耐性は生じない。

オピオイド受容体の  $\mu_2$  受容体の刺激により起こる。

オキシコンチン、塩酸モルヒネでは  $\mu_2$  受容体の刺激は強いが、  
フェンタニルパッチでは  $\mu_2$  受容体への刺激は弱いので便秘の副作用は軽度である。



## 対策

下剤などで排便のコントロールをする。

腸管内での水分保持: 酸化マグネシウム etc.

大腸の蠕動運動の亢進: センノシド・ピコスルファートリウム

排便の刺激: 炭酸水素ナトリウム - 無水リン酸二水素ナトリウム  
合剤坐薬

下痢と便秘を繰り返す: ミソプロストール

## 悪心・嘔吐

麻薬使用患者の約60%の患者でおきる。  
約2週間以内で耐性を生じる。

## 対策

Cmax時に起こる悪心・嘔吐

中枢性ドパミン受容体拮抗薬(ハロペリドール、プロクロルプロマジン)

食後に起こる嘔吐

末梢性ドパミン受容体拮抗薬(ドンペリドン、メトクロプラミド、モサプリドン)

体動時に起こる嘔吐

抗ヒスタミン薬(ジメンヒドリナート、レスタミン)

## 眠気

麻薬使用患者の約20%の患者におきる

比較的速やかに耐性が生じる。1週間以内

眠気の強いときは過量投与を疑う。

過量投与時の傾眠傾向は必要量の約2倍量で起こる。

## 対策

眠気が不快に感じる時:メチルフェニデート

参考資料:治療薬マニュアル2006 医学書院 監修 高久 史磨・矢崎 義雄  
処方わかる医療薬理学2004-2005 Gakken  
オピオイド治療薬 エルゼピア・ジャパン  
日本病院薬剤師会雑誌 第42巻 9号 2006年 p.1177~1180  
癌疼痛治療のレシピ 春秋社 執筆・監修 的場 元弘  
オピオイドのすべて 株式会社 ミクス